



編集兼発行者

千葉大学医学部

みのはな同窓会報編集部

〒280 千葉市亥鼻1-8-1

千葉大学医学部内

みのはな同窓会

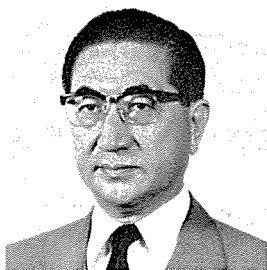
電話千葉(0472) 22-7171内線2038

千葉大学医学部同窓会報 第90号 題字 鈴木五郎

東京医科歯科大学長

に就任して

加納六郎(昭20卒)



私は第二次大戦の始まった昭和16年に千葉医大へ入学し、終戦の年の昭和20年に卒業しました。陸軍軍医学校で終戦を迎え、伊勢崎病院外科、慈恵医大病理、東大伝研を経て、昭和27年に東京医科歯科大学医学部講師となり医動物学を担当しました。昭和29年に農村厚生医学研究施設の助教授、32年に公衆衛生学の教授を経て、38年に医動物学の教授になりました。52年から55年まで医学部長を務め、60年に学長に就任しました。専門は衛生昆虫学と有毒動物学で、この間、文部省の在外研究員、海外学術調査、JICAなどによって、南米、

アフリカ、中近東、南アジア、南太平洋諸島などで調査研究を行っていました。昨年8月図らずも医歯大の学長に推挙され、重い責任を感じております。医歯大は創立後58年の輝かしい歴史をもち、驚異的な発展を遂げてきましたが、誠に残念なことは、昭和58年医学部において不祥事が生じた事です。医学部では医学部長、病院長が中心となって多くの委員会を作り、自戒自重して、名誉挽回に努め、欠員教授席にもそれぞれ立派な方

柄は、1、湯島地区の再開発、2、入学者選抜、3、医の倫理、4、国際交流、5、関連病院、6、附属教育施設、等であり、私の就任後の状況と私の考えを述べます。1については、現在の土地があまりに狭いので、府中市に土地拡充を考えましたが、現時点では不可能となり、湯島地区の再開発に踏み切りました。歯学部は既に高層の新棟が出来上り、次は医科新棟の計画を立て、来年着工、七年で完成の予定です。これはただ古い建物が新しくなったというのではなく、救急医療などに力を入れた日本の顔になるような医科新棟を作りたいとの夢をもっています。2については、ただ成績が良いだけではなく、医師、歯科医師としての適性のある心の豊かな人材を選

びたいと思い、選抜方法を検討しています。3については、大学倫理審査規程を作り、医学部では倫理審査委員会が発足しました。4については、国際交流専門委員会を作り、5については人材の交流と生涯教育の場としてとくに力を入れています。6については、現在ある看護学校、臨床検査技師学校、歯科衛生士学校、歯科技工士学校を合わせて、医療短大にしたいと考えています。

以上私の任期中に大きな成果をあげたいものと日夜頑張っています。千大の井出源四郎学長とは大卒で同級で同じグループであり、とくに親しく、国立大学協会の関東甲信越部会では一緒に世話役などやり、活躍しています。

例報告が相次いだ。
本症は主として四才以下の乳幼児に好発し、五日以上続く発熱、四肢末端が急性期に硬性浮腫、紅斑、回復期に指先に特有な膜様落屑が起る。不定形発熱、両側眼球結膜の充血、口唇の紅潮、いちご舌、口腔咽頭粘膜のびまん性発赤、急性期における非化膿性頸部リンパ節腫脹などを主症状とし、核左方移動を伴う白血球増多、血小板増多、赤沈値の亢進、免疫学的変化、等の検査所見を示すものであるが、最も注目される点は、発病一二月で罹患児の10〜20%に冠動脈瘤が証明され、一部に血栓閉塞、死亡するものもあることである。この冠動脈瘤は後に多くは修復されるが、一部は残って突然死の原因にもなるので、罹患児を十分に管理する必要があることがわかった。

昭和45年以来的厚生省研究班の全国調査によると、昭和42年以來年々増加傾向があり、特に昭和54年の前半、57年の前半、60年11月から61年2月には全国的な大流行を来し、現在までに七万例を超えることがわかった。本症はアメリカ、カナダ、西ドイツ、韓国などでも多く発生しているが、人種的には日系に多く、白人や黒人には少ない。

川崎富作氏は、この小児の重大なる疾患「川崎病」を発見したのみならず、さらに未だ知られざる本症の病因解明に対し、常に多くの本症の研究者の中心となって全情熱を傾けておられることはまことに壮とすべきであらう。

日赤医療センター小児科

川崎富作部長のベールリング・北里賞受賞を祝して

小児科学講座教授 中島博徳(昭23卒)

日赤医療センター小児科部長川崎富作博士が、第四回ベールリング・北里賞に輝き、九月十九日帝國ホテルにおいて、厚生大臣、駐日ドイツ連邦共和国大使、日本医師会会長、ほか四百人余の臨席の下に、受賞式と受賞記念講演が行なわれた。本賞は、ヘキストジャパン株式会社がベールリング、北里両博士の業績に因んで、免疫学分野において優れた業績をあげた人を全世界の研究者の中から選び、二年に一度授賞するものである。

川崎博士は千葉医大附属医学専

門部昭和23年卒後、昭和24年小児科学教室入室、昭和25年以後日赤中央病院に勤務、今日に至っている。今回受賞した「川崎病」は、昭和37年氏が初めて日本小児科学会千葉地方会で報告(本会報第75号、昭和55年12月20日発行、参照)後、毎年症例を重ね、五十例に達した昭和42年に、「指趾の特異的落屑を伴う小児の急性熱性皮膚粘膜淋巴腺症候群―自験例50例の臨床的観察―」と題して、「アレルギー」誌に発表したところ、全国的な反響があり、全国各地より症

会 計 報 告

昭和60年度 決 算 報 告

昭和61年度 予 算 案

A. 収 入 の 部

科 目	予 算 額	年度末収入計	差引高(△減)
財 産 収 入	500,000円	1,022,361円	522,361円
会 費 収 入	6,000,000	6,022,500	22,500
事 業 収 入	7,500,000	8,649,000	1,149,000
寄 附 金	100	1,230	1,130
繰 入 金	0	0	0
繰 越 金	3,905,037	3,905,037	0
収 入 計	17,905,137	19,600,128	1,694,991

B. 支 出 の 部

科 目	予 算 額	年度末支出計	差引高(△減)
1. 事 業 費			
会 報 発 行 費	650,000	298,325	△351,675
名 簿 発 行 費	7,150,000	6,580,000	△570,000
新 会 員 歓 迎 費	300,000	300,000	0
顕 彰 奨 学 費	200,000	0	△200,000
慶 弔 費	80,000	22,710	△57,290
支 部 連 絡 費	300,000	100,000	△200,000
小 計	8,680,000	7,301,035	△1,378,965

2. 事 務 費

備 品 費	30,000	0	△30,000
消 耗 品 費	200,000	68,595	△131,405
通 信 印 刷 費	2,400,000	2,111,580	△288,420
振 替 手 数 料	210,000	194,460	△15,540
会 議 費	100,000	21,913	△78,087
諸 手 当 費	1,200,000	1,218,282	18,282
謝 金 費	130,000	76,500	△53,500
退 職 金 引 当 金	0	71,000	71,000
小 計	4,270,000	3,762,330	△507,670

3. 予 備 費

基 金 繰 入 額	4,000,000	4,000,000	0
予 備 費	955,137	645,468	△309,669
小 計	4,955,137	4,645,468	△309,669
支 出 計	17,905,137	15,708,833	△2,196,304
繰 越 額		3,891,295	
基 金	20,000,000+4,000,000=24,000,000	退職金積立金	71,000

A. 収 入 の 部

科 目	予 算 額	前年度比(△減)
財 産 収 入	500,000円	0円
会 費 収 入	6,000,000	0
事 業 収 入	0	△7,500,000
寄 附 金	100	0
繰 入 金	0	0
繰 越 金	3,891,295	△13,742
収 入 計	10,391,395	△7,513,742

B. 支 出 の 部

科 目	予 算 額	前年度比(△減)
1. 事 業 費		
会 報 発 行 費	700,000	50,000
名 簿 発 行 費	600,000	△6,550,000
新 会 員 歓 迎 費	300,000	0
顕 彰 奨 学 費	200,000	0
慶 弔 費	80,000	0
支 部 連 絡 費	300,000	0
小 計	2,180,000	△6,500,000

2. 事 務 費

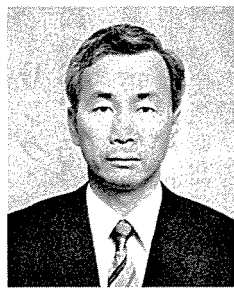
備 品 費	30,000	0
消 耗 品 費	200,000	0
通 信 印 刷 費	2,000,000	△400,000
振 替 手 数 料	120,000	△90,000
会 議 費	100,000	0
諸 手 当 費	1,250,000	50,000
謝 金 費	200,000	70,000
退 職 金 引 当 金	73,000	73,000
小 計	3,973,000	△297,000

3. 予 備 費

基 金 繰 入 額	3,000,000	△1,000,000
予 備 費	1,238,395	283,258
小 計	4,238,395	716,742
支 出 計	10,391,395	7,513,742
基 金 24,000,000	退職金積立金	71,000

昭和61年度あのはな同窓会総会(6月21日)において承認。

昭和61年9月より、肺癌研究所
設第二臨床研究部(呼吸器内科)を
担当しております。肺癌をはじめ
とする呼吸器疾患が増加傾向を示
している時に、大役を得たことの
責任と感慨を感じております。振
り返れば第二臨床研究部は、第一
臨床研究部(肺外科)、病理部門研
究部(肺研病理)について、内科部
門として設置され、昭和44年1月
渡辺昌平先生が初代教授に就任さ
れたのを初まりとします。その後
の歩みは丁度、植樹された若木が
成長する様に比較できると思いま
す。昭和47年4月診療部門が認可
され、これで若木も土壌から自力
で栄養を吸収できる状態になりま
した。この頃は、まだ幹も細く、
枝や葉も少なく、肺循環障害、肺
癌、呼吸調節機能に関する研究を
中心とした根も細く、かつ浅い状



栗山喬之(昭43卒)

教授に昇任された本学肺癌研究所第二臨床研究部、栗山喬之
先生、ならびに電気通信大学保健管理センター、和歌山県立医科
大学整形外科教室、帝京大学医学部附属市原病院精神科学教室
へそれぞれ着任された小川道一教授、玉置哲也教授、竹内龍雄教
授より新任のご挨拶をいただきました。

肺癌研究所第二臨床研究部

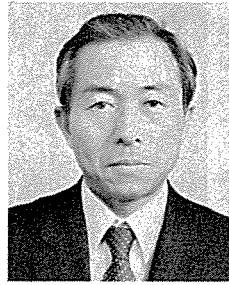
態でした。しかし教室員の増加に
つれ、新しい樹根が栄養を求めて
各方面に伸び、またもとの樹根は
枝分れしながら太く、さらに地中
深く伸び、たくましい成長を支え
る準備ができ、その結果、学会発
表や投稿論文も増え、出張病院も
多くなるなど、枝葉も繁ってきました。
このような急速な成長は、な
によりも渡辺先生を中心にした教
室員、学内、学外の多くの方々や
関連病院に支えられたためであり
ますが、他方で肺結核を中心とし
る従来の呼吸器病学から、複雑な
社会環境のもとでの多彩な呼吸器
疾患を対象とした新しい呼吸器病
学へという時代の要請に対応した
動きでもあり、今後その勢いを持
続させるようになってはいけな
いと思っています。木の寿命、いや
学問の永続性に比較すれば、第二
臨床研究部の歩んできた道は短く、
私の担当する期間もけして長くは
ありません。しかし肺研の一部門と
して、他の二本の木とともに連係
を持って着実に成長を続けられ、
それぞれが樹冠を接する大樹とな
るだけでなく、その周囲に稚樹が
(新任教授挨拶は三面に続く)

新任教授あいさつ

発生して若木となり、やがて森を形成するのではないかと考えています。成長率のみに重きを置いて、施肥を行い、短期に育てられた木は風害、雪害を受け易いことが知られております。時を経て、風雪に

電気通信大学保健管理センター

小川道一 (昭31卒)

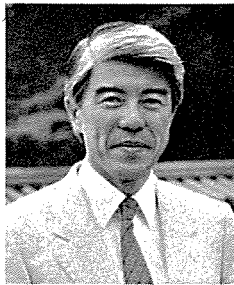


耐えた大樹の木肌はゴツゴツして、若木のような滑らかさはありませんが、その年輪は密で美しいとされております。今後、おのほな同窓会の皆様には、長期的な視野から見守って下さるよう御願い申し上げます。

自然環境です。大学構内は、武蔵野の面影を残す松、桜の巨木も多く、三十数年を過ぎた千葉大学医学部の構内を懐しく思い出させてくれます。

和歌山県立医科大学整形外科学講座

玉置哲也 (昭38卒)



この度、吉田 亮前医学部長、恩師本間三郎、井上駿一前教授はじめ本学教授会の諸先生の御推薦により、八月一日付けをもちまして和歌山県立医科大学整形外科学教授として赴任いたしました。千葉大学、また、辻 陽雄教授の御指導のもとでの富山医科薬科大学在任中は同窓諸兄弟には一方ならぬ御高配を賜りましたことを、この紙面を借りまして深く御礼申し上げます。

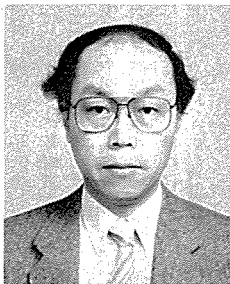
センターの役目です。同時に一般教養の講義を受持ちますが、従来の医学部の講義とは異なり、総論をさらに平易にした内容です。さらに工科系の大学であるという特色を生かし、各学科のスタッフから成るMEの研究プロジェクトに、臨床医学の立場から参加しています。千葉大学医学部で三十年間学んだ臨床医学の知識を生かすべく、健康に留意して努力していますが、現状です。最後になりましたが、教授就任にさいして御尽力下さった千葉大学医学部の諸先輩およびおのほな同窓の皆様へ深謝致します。今後共一層の御指導、御鞭撻の程お願い致します。

和歌山県立医科大学には、かつて、耳鼻咽喉科科学教授として昭和二十六年卒、奥田 稔先生、同助教授として昭和三十六年卒、今野昭義先生が在籍されたことがありますが、その他には、関係されたおのほな同窓会々員は無く、比較的縁の薄い医科大学であったかと思ひます。県立医大という現在では数少ない形態の医科大学であり、学生数も一学年六十名と、小じんまりとした規模ではありますが、地域社会と極めて密着した存在の医療機関となっております。施設は、文字通り風光明媚な和歌山市の中心街に近く、和歌山城々門の前に位置しておりますが、それだけに敷地面積にも制限があり、抱える問題も多く、近い将来には新しいキャンパスへの移転が開始されようとしております。

整形外科教室は、約四十年の歴史を持ち、私が四代目の教授ですが、同窓会々員総数約百十名と然程大きくもない教室でまともにも良く、全員一丸となって頑張つて行こうとする熱意が感じられます。南国の明るさの中で違和感も

帝京大学医学部附属市原病院精神科学講座

竹内龍雄 (昭40卒)



加えた計六名の医局構成員が発足致しました。皆それぞれに臨床精神医学の新進気鋭の学徒ばかりで、診療はもちろん教育や研究の面でも、必ずや期待に応えてくれるものと信じております。

ごあいさつが遅れましたが、私は本年四月一日付で帝京大学附属市原病院精神科教授に就任致しました。昨年四月から帝京大学本院精神科の助教授として市原病院精神科の開院準備に当たつてきましたが、このたびの開院と共に当院へ移り昇任となったものです。就任に際し、ご尽力いただいた帝京大学本院精神科主任、風祭 元教授(東大、昭33卒)、千葉大学精神科、佐藤三三教授(昭21卒)、並びに前任校の筑波大学臨床医学系精神医学科、小泉準三教授(昭30卒)に深く感謝致します。当科には私のほか千葉大学から富山学人講師(昭44卒)、岡田真一助手(昭59卒)、山内直人助手(昭59卒)の三名が、また筑波大学から林 竜介助手(筑波大、昭58卒)がそれぞれ赴任し、他に臨床心理士一名を

本田良行教授

(生理学・第二)

評議員に

木村教授が医学部長に就任のため評議員の後任選出が行われ、本田教授(金沢医大・昭25卒)に決定した。任期は残任期間のため来年の五月三十一日までとなる。

御注意願います

最近、「アジア医薬生物資源学術調査隊派遣委員会」(事務局を千葉大学医学部のある研究室内に設置する旨封筒に記載)という団体が、東南アジア各地の大学と交流し、医薬に関する総合学術調査研究を行い、発展途上国から千葉大学への留学希望者の援助も行う旨を記し募金活動をしており、一部の同窓会員のところへ趣意書が送られました。封筒には「千葉大学アジア学術調査隊派遣委員会」とありますので、如何にも千葉大学の委員会からみえるのですが、現在国立大学には「国際主幹」があり、また「国際交流委員会」があつて、この種の活動を統括しており、「このような委員会は、現在の千葉大学にはありません」ので御注意申し上げます。

なお、「千葉大学生新聞」なるものも「千葉大学とは無関係」ですので再び御注意申し上げます。さらに「おのほな祭」に関する寄付「おのほな同窓会活動とは全く別であります」(編集部)

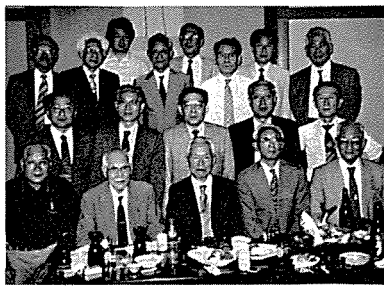
各地るの は な 会 だより

医薬合同横須賀

るの は な 会

恒例になっている医薬合同会を昭和六十一年五月十七日、市内の魚籃亭で開催した。会長は久富良次先生(昭12卒)で、幹事の関尾秀一先生(昭20卒)のお世話になった。

開会にさきだち、物故会員高木釘寿郎先生(明治44卒・薬)に一同黙祷を捧げた。



近況報告のあと、森本一善先生(昭3卒)の音頭による乾杯のあと、楽しい賑やかな酒宴となった。

参加は医科10名、薬科7名で、新しく浦賀病院より瀬戸屋健三先生(昭28卒)、宮崎彰先生(昭50卒)、日産自動車病院の小林剛先生(昭23卒・薬)が出席された。

同会で斎藤宗寿先生(昭16卒)の画集が披露され、昭和60年に企

画集成された会員の投稿による第一回文集が好評となり、第二回を計画することとなった。

(青木太三郎昭28卒記)

宇都宮

るの は な 会

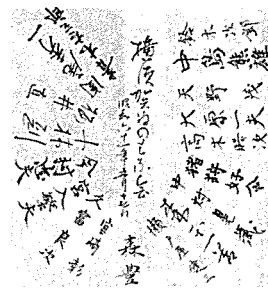
昭和六十一年度の宇都宮るの は な 同窓会は去る七月十一日、宇都宮市内のホテルニューイタヤで開催された。

渡辺宗次会長(昭10卒)のもと三十数名の会員は、最近とみにまとまりを見せ、会員の学会、医師会活動等での活躍に一丸となって支援できる体制となってきた。総

会は柴崎晃先生(昭28卒)の名司会で進められ、まず、本年六月二十七日に他界された大和田操(昭32卒)会員の冥福を祈った後、渡辺会長のユニークな挨拶、小沢達也先生(昭12卒)の乾杯と続いた。

次いで本年四月より栃木県医師会長になられた片山一郎先生(昭25卒)の「今後の医療界の見通しについて」等を拝聴した。

最近の学内事情報告があり、特に



片山一郎先生栃木県医師会長就任祝賀会にて

同窓のよしみで、各人齒に衣を着せず医療界、政界、大学活動等への直言、批判等ワイワイガヤガヤと夜の更けるのも忘れて語合い、親睦を深めた。会員各位の健康を祈り、盛会裡に散会した。

(坂田早苗昭34卒記)

長野県

るの は な 会

例年より長引いた梅雨も明けた七月二十六日(土)、三年ぶりに長野県るの は な 会総会(会長、百瀬孝男氏(昭6卒))が、長野駅前長野第一ホテルで三十七名が出席して開かれた。

当日は来賓として、千葉大学長に再選されたばかりの本県出身の巨星、井出源四郎先生と千葉大学のトップレディーと謳われている眼科の安達恵美子教授をお招きした。総会の後、井出学長より

最近の学内事情報告があり、特に



片山一郎先生栃木県医師会長就任祝賀会にて



例年より長引いた梅雨も明けた七月二十六日(土)、三年ぶりに長野県るの は な 会総会(会長、百瀬孝男氏(昭6卒))が、長野駅前長野第一ホテルで三十七名が出席して開かれた。

当日は来賓として、千葉大学長に再選されたばかりの本県出身の巨星、井出源四郎先生と千葉大学のトップレディーと謳われている眼科の安達恵美子教授をお招きした。総会の後、井出学長より

最近の学内事情報告があり、特に

最近の学内事情報告があり、特に

最近の学内事情報告があり、特に

最近の学内事情報告があり、特に

最近の学内事情報告があり、特に

最近の学内事情報告があり、特に

最近の学内事情報告があり、特に

最近の学内事情報告があり、特に

最近の学内事情報告があり、特に

埼玉県

るの は な 会

(昭16卒)の音頭で、母校千葉大学と長野県るの は な 会のますますの発展と、会員各位の活躍を願って万歳を三喝し、次回の再会を約して三々五々帰路についた。

(幹事・熊谷信夫(昭28卒)、夏目隆一(昭32卒)記)



千葉大学るの は な 同窓会埼玉支部 於、大宮清水園

昭和61年7月27日(日)、大宮市内で恒例の埼玉るの は な 同窓会を行いました。三名の物故者への黙

の後、総会に移り同窓会組織の強化について協議しました。次いで萩原敏秀先生(昭14卒)の叙勲のお祝いをしました。

講演会は千葉大から第二外科の磯野可一先生(昭33卒)、薬理の村山智先生(昭26卒)をお招きして、それぞれ食道癌の映画とお話、学内事情についてのお話をして戴きました。懇親会は、両教授を中心

に新藤清司会長(昭16卒)ほか長老方を上座に、新旧入り混じ

昭和六十二年
入試要項

(井上幸万(昭27卒)記)

受験機会の複数化や共通一次試験受験科目の削減が行われる来年度の入試については、関心の深い方が多いと思われるが、本学でもすでに七月に、入試要項を公表した。受験生が気にすることの一つに配点がある。本学の場合、

【共通一次】国語二〇〇、社会一〇〇、数学二〇〇、理科一〇〇、外国語二〇〇、計八〇〇点。
【二次試験】数学二〇〇、理科四〇〇、外国語二〇〇、小論文一〇〇、計九〇〇点である。

今まで共通一次が五教科七科目であったため、計一〇〇〇点であったことを考えると、共通一次試験と二次試験との配点の重みが逆転したことになる。

なお、医学部入学生定員一〇〇名と公表されているが、昭和六十二年度予算の概算要求の決定次第、一〇〇名に減員されることになった。なお「学生募集要項」は十一月末には公表、配布される。

日程【共通一次試験】一月二十四日・二十五日【二次試験】三月十五日【合格発表】三月十九日。

クラス会だより

昭51卒

クラス会

昭和五十一年卒業生は、卒業十周年を記念し、卒業一回目のクラス会を去る二月二十五日千葉市内「並木」で開催した。昨年十二月三十日に宇高義夫君が他界し、渡辺治良君に続き卒業十年にして二人の級友を失ってしまった。全員で冥福を祈り、遺児の奨学制度について話し合った。百三名中海外留学中の6名を除き、関東、静岡



一円から49名もの多数が参席した。遠くは沖縄より我那覇仁君もかけつけてくれた。

卒後十年は、いわゆる一線病院での中堅兼牽引者クラスであり、大学に現在32名残っている他、58

長野県立阿南病院 改築落成式挙行政される

院長 鈴木 伸 典 (昭36卒)

開設以来四十一年の歴史を有する当院も建物が老朽化したため、昭和58年から増改築工事に着手しておりましたが、本年三月に完成し吉村長野県知事、高瀬信州大学医学部長、千葉大学から奥井教授等の出席をいただいて、去る六月三日竣工式を行いました。新館には検査部、放射線部、手術部、リハ

核病院としての基盤が固まりました。病床数は二百床(一般百五十、精神五十)で、内科、外科、整形外科、産婦人科、小児科、精神科その他、非常勤医師による眼科診療を行なっており、十三名の医師が巡回診療、検診活動等も含め地域医療に努力しております。千葉大関係者は、上木隆人(内科、昭46卒)、久田俊和(小児科、昭46卒)、石橋真貴(整形外科、昭52卒)、鈴木伸典(院長、内科、小林国力(外科、信州大昭58卒) および柳沢真

東京医歯大のはな同窓会近況

窪田 金次郎 (昭23卒)

本学には、教養部が千葉県国府台に、医学部、歯学部のほか難治疾患研究所、医用器材研究所、顎口腔総合施設がお茶の水にあります。数年前までは、あのはな同窓生も多かったのですが、今は少なくなりました。古参順にご紹介します。

加納六郎学長(昭20卒)。昭和27年医学部の講師。その後公衆衛生、医動物の教授。昭和52年に医学部長。昭和60年に学長。専門は衛生昆虫学。南米、アフリカ、中近東、東南アジア、南太平洋諸島で調査研究を行なった。ふくれ上ったお茶の水キャンパスの再開発に手腕が期待されます。

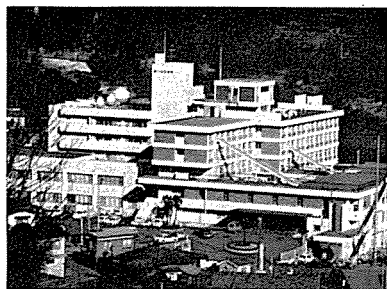
窪田金次郎教授(昭23卒)。東大解剖で死体集めに奔走。昭和28年歯学部講師。臨床解剖学、生態観察担当。昭和42年イバダン大学で



左手医学部外来研究棟、右手歯学部歯科新棟(顎研12F) 窪田撮影

有機化学の講義と実験担当。リン脂質の合成研究、特に、目下話題の血小板活性因子とその誘導体の合成に取り組んでいます。

- 一〇メモ
- ☆千葉大学医学部教授数 四三名(二三講座、七施設、その他三)
 - ☆全国大学数(昭和六一年度) 一〇一四 四年制 四六六 短大 五三八
 - ☆四年制大学・四六六校の内訳 国立 九五 公立 三八
 - ☆私立 三三五(含放送大学)
 - ☆大学生数 約一八七万人
 - ☆国立 四六万人 公立 五万人 私立 一三六万人
 - ☆医学部入学者数(年間医師数) 約八五〇〇人(九〇大学)
 - ☆国立 四五〇〇 公立 七〇〇 私立 三三〇〇
 - ☆千葉大学学生数 一〇三九〇人



司(外科、昭60卒)の六名ですが、他に信州大学、浜松医大さらには山梨医大からも応援を仰いでおります。本院は開院当初から千葉大学とは特に密接な関係にあり、全面的なバックアップを頂いておりますが、今後共、一層の御支援を期待しております。

福山右門先生 前、解剖学教授 久保政次先生 前、小児科学教授

名誉教授となられる

「千葉大学名誉教授の称号授与に関する規程」等の一部改正にとともに、医学部教授会は福山、久保両先生を御推薦申し上げた。さる一〇月一六日の千葉大学評議会において、六名の方々につき審議の結果、千葉大学名誉教授の称号の授与、昭和六一年一〇月一六日付けが決定され、名誉教授称号の授与式が十一月七日、千葉大学本部にて行われた。いずれお話を伺う予定であるが、とりあえずお二人の名誉教授の歩みを抄出し、喜びを皆様にお伝えしたい。

福山右門名誉教授は明治四三年のお生まれ。昭和一〇年に満洲医科大学を卒業後、東北帝国大学助教、福島県立医大教授を経て、昭和三六年来に千葉大学（医）教授となられ、昭和五〇年に定年退官された。

久保政次名誉教授は明治四五年のお生まれ。昭和十三年千葉医科大学卒業後、母校の助教より昭和三年東邦医大教授、昭和三八年に千葉大学（医）教授となられ、昭和五二年に定年退官された。

ススルタ大医典 天皇陛下に献上

去る六月二十二日、椿山荘でのるのな同窓会の折、高柳欽一先生（昭24卒）が編集子に次のように語られたのでお伝えする。

「故伊東弥恵治、故鈴木正夫両名誉教授が多年の月日を費やされて翻訳され、昭和四十六年には日本医師会最高優功賞を受賞したこの大医典三巻を既に天皇陛下はじめ各宮家に献上申し上げた。その詳細は、『漢方の臨床』三十二巻二号六十二ページをみていただきたい。」

書評

柳橋雅彦（昭46卒・松原公護（昭54卒）訳、W・フオイエルライン著
アルコホルスムス

牧野出版、二四四頁、定価三五〇〇円、昭和61年7月発行
本書の原著者はミュンヘンのマックスプランク研究所の精神科診療部長で、初版は一九七五年。改訂を加えた本書は第三版。もちろんドイツ語で書かれていて、訳著者の一人、柳橋氏がチュービンゲン大学のアルコホルスム治療病棟に留学していた事が縁となって、日本語版が上梓される運びとなった。本書は8章から成り、引用文献は七六四篇に及んでいる。第1章と第8章にはアルコホルスムスに対する原著者の哲学が盛り込まれており、第2章の「構造的條件」のほか、症候、診断、形態、治療予後、予防等に分け、いかにもドイツ人らしい緻密さで書かれている。訳は適確で平明、索引も完備していて、専門家以外の人にも役立つ好著である。（Y・H）

第11回あのはな美術展

61年7月15日～21日

東京銀座集雅堂ギャラリーにて
森本一善先生以下24名の洋画、書、陶器など31点の出品。医学部卒業生による美術展としては質量ともにユニークな存在に発展しており、東京るのはな会から賛助金を受けております。同窓会会員で美術に関心のある方は、あのはな美術展事務所 〒160 東京都新宿区高田馬場一―二五―二九 石谷医院内。石谷治彦（電話〇三―二〇〇―〇七七八）御連絡下さい。昭和61年度会員、（一）は卒業年度。

武野良仁（昭28卒）監修 自然気胸

鳳鳴堂書店、三〇八頁、定価一万二千元、昭和61年8月発行
武野良仁博士（昭28卒）監修になる「自然気胸」が鳳鳴堂書店より発行された。本書は、気胸研究会の有志二十三名の分担執筆による三百八頁の立派な本である。臨床の場で自然気胸の患者は数多く遭遇するが、その本態はなお不明な点が多く、従って特発性気胸と呼ばれることも多い。かかる意味

ヘルツの思い出

本書の構成については少し説明を必要とする。前編は故佐藤義房先生（大正12卒）の遺句集（直筆約一五〇句）後編は荒井政雄氏による詳細な追悼記（約二〇〇頁）であり、編集・発行人は、本書を編集部に贈って下さった御子息の博義氏である。生涯の大部分を八戸赤十字病院長として過ごされた昭和五十七年に八十三才で他界された先生の一生が記されている。（佐藤博義氏・〒031 青森県八戸氏沢里二ツ屋一―三二）

人事異動

昭和61年6月1日～10月15日
教授昇任
教授昇任
王置哲也氏（昭38卒）和歌山県医大整形外科講座へ転出
栗山喬之氏（昭43卒）本学肺病研究施設第二臨床研究部門（呼吸器内科）

助教授昇任

守屋秀繁氏（昭42卒）本学整形外科学講座

訃報

川島 栄一氏（大12卒、昭60年12月26日逝去）
片海 潮氏（大6卒、昭61年2月21日逝去）
菊池 正己氏（昭18卒、昭61年3月2日逝去）
朝岡 唯夫氏（昭3卒、昭61年3月逝去）
兵頭 初治氏（大5卒、昭61年4月4日逝去）
堀 和平氏（昭4卒、昭61年4月19日逝去）
相原 静一氏（昭20卒、昭61年5月3日逝去）
佐藤 貞夫氏（昭8卒、昭61年5月27日逝去）
各務 正暉氏（昭35卒、昭61年6月7日逝去）
安藤 守元氏（大7卒、昭61年6月22日逝去）
大和田 操氏（昭32卒、昭61年6月26日逝去）
中島 保雄氏（昭14卒、昭61年7月1日逝去）
浦上 栄一氏（昭25卒、昭61年7月1日逝去）

編集後記

☆過日、羽鳥 弘先生（昭26卒）より原稿を頂きました。内容は、本年度のるのな同窓会総会での岩井宏美氏（国立歴博、教授）の特別講演「暮らしの中の民俗学」（45分間）の全内容の速記録です。紙面の都合で掲載できないのが残念です。お読みになりたい方は、編集部に原稿を保管してありますのでご利用ください。

☆本号より鈴木信夫先生（第二生化学、助教、昭47卒）が編集委員に参加されました。

☆59号五面「昭八会クラス会」の日向秀夫先生の御住所が間違っておりまして、〒220横浜市中区霞ヶ丘75。訂正させて頂きます。

☆次号の発行は昭和62年1月の予定です。（徳永 敬）

高尾 三良氏（昭16、3卒、昭61年7月29日逝去）
川島 正夫氏（昭12卒、昭61年8月4日逝去）
村田 春造氏（昭9卒、昭61年8月11日逝去）
土屋 豊氏（昭9卒、昭61年8月14日逝去）
村田 謙輔氏（昭14卒、昭61年9月3日逝去）
武田 清一氏（昭22卒、昭61年9月7日逝去）
伊藤 賢章氏（昭22卒、昭61年9月8日逝去）
橘 正敏氏（昭28卒、昭61年9月17日逝去）
河合 正計氏（昭26卒、昭61年10月26日逝去）